

平成16年度 岐阜県高等学校総合体育大会バスケットボール競技
兼東海・全国高等学校総合体育大会岐阜県予選会
大会最終日:平成16年5月30日(日)
会場:関わかさプラザ

男子の部

< 審判 >

決勝リーグ 岐阜総合 122 $\begin{bmatrix} 25 - 25 \\ 31 - 22 \\ 36 - 23 \\ 30 - 24 \end{bmatrix}$ 94 美濃加茂 (2敗) 小牧秀則・増田博徳
(2勝)

両チームとも、マンツーマンディフェンスでスタート。岐阜総合は、梅田の1対1、原(敬)のポストシュートで得点を重ねると、美濃加茂も高橋の1対1や木村のシュートで得点をあげ、両者譲らず同点で第1ピリオドを終わる。第2ピリオド、岐阜総合は堅いディフェンスから速攻が出始め、梅田、原(敬)が確実にシュートを決める。前半は岐阜総合が56-47とリード。

第3ピリオド、岐阜総合は相手の司令塔 高橋をフェースガードで守って出足を止めると、新川が3本の3点シュートを含む15点をあげる活躍をし、一気に点差を広げる。第4ピリオド、美濃加茂はオールコートプレスをしかけ挽回を図るが、点差は縮まらない。岐阜総合は全員をベンチメンバーに代える余裕を見せ、大差で決勝リーグの2勝目をあげた。(宮崎泰彦)

決勝リーグ 長良 81 $\begin{bmatrix} 20 - 24 \\ 21 - 23 \\ 19 - 14 \\ 21 - 9 \end{bmatrix}$ 70 斐太 (1勝1敗) 室谷伸治・山田祐治
(1勝1敗)

両チームともマンツーマンでスタート。長良は秋田のインサイドに加え、浅野、栗田のペネトレイトやミドルシュートで得点を重ねるのに対し、斐太は熊崎がディフェンスに専念し、北川と藤岡のカットインで得点し、一進一退の攻防となる。第2ピリオド、斐太は北川、藤岡が1対1で得点し、残り3分で45-31と14点リードする。しかし長良は2-1-2ゾーンに変えて相手の攻撃を封じ、ゲームの流れをつかむ。一気に10得点をあげて、41-47と6点差まで追いついて前半を終了。

第3ピリオド、長良は2-1-2ゾーンで守る。ゲームの流れは相変わらず長良にあり、栗田、後藤のシュートが次々と決まって、51-50と逆転に成功する。斐太は2-2-1ゾーンプレスから2-3ゾーンにディフェンスを変え、小池らのシュートが決まりだし、またも一進一退の展開となる。第4ピリオド、長良は浅野、栗田、太田の速攻やシュートが次々に決まり、一気に10点のリードを奪って勝利をものにし、ようやく決勝リーグ1勝目をあげた。斐太はマンツーマンディフェンスで勝機を見いだそうとするも、相手のゾーンディフェンスに対して外角シュートが決まらず、惜しくも敗れ去った。(西脇勝己)

決勝リーグ 岐阜総合 122 $\begin{bmatrix} 35 - 20 \\ 33 - 29 \\ 30 - 28 \\ 24 - 35 \end{bmatrix}$ 112 斐太 (1勝2敗) 増田博徳・相宮俊郎
(3勝)

両チームともマンツーマンでスタート。岐阜総合は、原のジャンプシュート、赤座の3点シュートで得点をあげれば、斐太も藤岡のミドルシュート、北川のドライブで得点し、5分までは13-11とほぼ互角の展開。ここから岐阜総合は激しいディフェンスで相手のミス誘い、速い展開でシュートを放ち、オフェンスリバウンドも積極的に飛びこみ、次第に点差を広げる。第2ピリオド、岐阜総合は梅田の1対1、新川のシュート、赤座の3点シュートが次々と決まり、さらに点差を広げる。斐太も2-2-1ゾーンプレスで相手のミス誘い、熊崎、北川のシュートで追いつける。前半は岐阜総合が68-49とリードして終わる。

第3ピリオド、岐阜総合は相手のゾーンディフェンスをやや攻めあぐむものの、要所で梅田、新川がシュートを決め、相手の追撃を許さない。第4ピリオド、斐太は何とか追いつきそうと熊崎、北川、藤岡が次々に3点シュートを決めるが、岐阜総合も落ち着いてゲームを運び、それまでの点差に守られてようやく相手を振り切り、勝利を手にした。岐阜総合は伝統の速攻と優れたシュート力を活かしてリーグ戦を勝ちきり、2年連続のインターハイ出場を決めた。(山田祐治)

決勝リーグ 長良 105 $\begin{bmatrix} 24 - 24 \\ 36 - 23 \\ 21 - 19 \\ 24 - 14 \end{bmatrix}$ 80 美濃加茂 (3敗) 西尾司・棚橋英一
(2勝1敗)

両チームともマンツーマンで始まる。長良が秋田のインサイドプレー、浅野のミドルシュートで得点をあげれば、美濃加茂は木村、高橋の外角シュートで対抗し、一進一退の攻防となり、第1ピリオドは同点。第2ピリオド、長良が栗田の連続シュートでリードを奪うと、2-1-2ゾーンをしいてゲームの流れを引き寄せた。美濃加茂も北見らがシュートを決めるものの、単発的なオフェンスになり長良の勢いを止められず、前半は60-47と長良がリードして折り返す。

第3ピリオド、長良は 秋田の力強いインサイドプレー、 栗田のドライブでリードを広げる。美濃加茂はオールコートマンツーマンプレスをしなげ何度もチャンスを作るが、長良のリードは揺るがない。第4ピリオド、美濃加茂はプレスディフェンスでボールを奪うと、3点シュートを放つが決まらない。逆に長良はリバウンドを確実に速攻に結びつけて徐々に差を広げ、大差で美濃加茂を下した。決勝リーグ2勝目をあげた長良は2位に食い込み、東海大会の出場権を獲得した。(西脇勝己)

女子の部

< 審判 >

決勝リーグ 岐阜女子 78 $\left[\begin{array}{l} 15 - 15 \\ 23 - 14 \\ 22 - 10 \\ 18 - 9 \end{array} \right]$ 48 高山西 (2勝) 三浦 潔・田中昭博 (2敗)

両チームともマンツーマンディフェンスでスタート。岐阜女子が 王、 岩田のインサイドを中心に得点するのに対し、高山西は 岩佐、 古本、 湯口の2対2などで得点。第2ピリオドの途中までは、一進一退の攻防を繰り返した。前半は、38-29と岐阜女子が9点のリード。

第3ピリオド、岐阜女子は高さを活かして 王、 岩田がインサイドで攻めるがシュートが決まらず、逆にリバウンドを拾った高山西が速攻から点差を縮め、一時は3点差まで追いついた。しかし、疲れから脚の止まりだした高山西に対し、岐阜女子はディフェンスのプレッシャーを強めて、相手の攻めをはねのける。ようやくペースをつかんだ岐阜女子が、高さを活かして点差を広げ、78-48で決勝リーグ2勝目をあげた。

決勝リーグ 県岐阜商 62 $\left[\begin{array}{l} 20 - 6 \\ 8 - 11 \\ 15 - 8 \\ 19 - 6 \end{array} \right]$ 31 関商工 (2勝) 小泉純子・安藤 聡 (2敗)

両チームともハーフマンツーマンでスタート。県岐阜商は硬さのためオフェンスのミスが出るが、ディフェンスを頑張りゲームを支配する。そして第1ピリオド途中から、柴田(朋)、柴田(ひ)のインサイドプレー、加藤のスピードあるプレーで次第にペースをつかみ、完全に主導権を握る。第2ピリオド、関商工は持ち前のパスワークが冴え、長瀬、長尾のシュートが決まり出す。さらにインターセプト、オフェンスリバウンドも出て、次第に差を詰めていく。前半は28-17と県岐阜商がリード。

第3ピリオド、県岐阜商は 松永の速攻や 加藤の1対1で次第に差を広げていく。関商工は決定的なチャンスを何度も得るが、相手の高さやディフェンスのプレッシャーの前にシュートが決まらない。第4ピリオド、県岐阜商は激しいディフェンスで相手の攻撃を封じると、柴田(朋)の9連続得点などで一気に突き放し、決勝リーグ2勝目をあげた。(長屋 貴)

決勝リーグ 岐阜女子 106 $\left[\begin{array}{l} 25 - 7 \\ 27 - 11 \\ 27 - 11 \\ 27 - 6 \end{array} \right]$ 35 県岐阜商 (3勝) 松野瑞穂・大江裕之 (2勝1敗)

両チームとも2勝で迎えた最終ゲーム、お互いにマンツーマンでスタートした。立ち上がりから岐阜女子は激しいディフェンスで相手に攻める隙を与えず、オフェンスでも 岩田、 服部を中心に、内外角とも着実に得点を重ね点差を広げる。前半を終わって、52-18と岐阜女子が大量のリード。

後半に入っても、岐阜女子は激しいディフェンスと高さを活かした攻めで相手を寄せつけず、圧倒的な力の差を見せつけて11年連続13回目の優勝を果たした。県岐阜商も 岩田、 柴田(ひ)を中心に食らいつこうとするが、及ばなかった。(清水 潤)

決勝リーグ 高山西 59 $\left[\begin{array}{l} 20 - 16 \\ 10 - 16 \\ 13 - 8 \\ 16 - 8 \end{array} \right]$ 48 関商工 (1勝2敗) 川島哲生・角平和優 (3敗)

立ち上がりはお互いに動きが硬く、シュートが入らない。関商工は 酒向のミドルシュートや3点シュートでリードするが、高山西は 湯口、 金田の3点シュート、 岩佐の速攻で逆転し、互角の展開。第2ピリオド、関商工は 酒向のミドルシュートや連続3点シュートで逆転すると、ディフェンスでも頑張りを見せてリードする。高山西は 白川がミドルシュートやゴール下で頑張るが、リズムが作れない。前半は32-30と関商工がリード。

第3ピリオド、高山西のミスに乗じて関商工は 酒向の3点シュート、 長瀬のミドルシュートで加点。しかし高山西はディフェンスを1-2-2オールコートゾーンに変えて流れを引き寄せ、攻めても 金田の連続3点シュートで逆転に成功。43-40と高山西が3点のリードで第4ピリオドを迎える。高山西の1-2-2ゾーンが奏効して3分には48-40と高山西がリード。関商工も2-2-1ゾーンで対抗し、7分には45-50と5点まで追いついて相手を脅かした。しかし高山西は 岩佐が落ち着いてプレーし、3点シュートも決めて逃げ切った。(杉山広之)